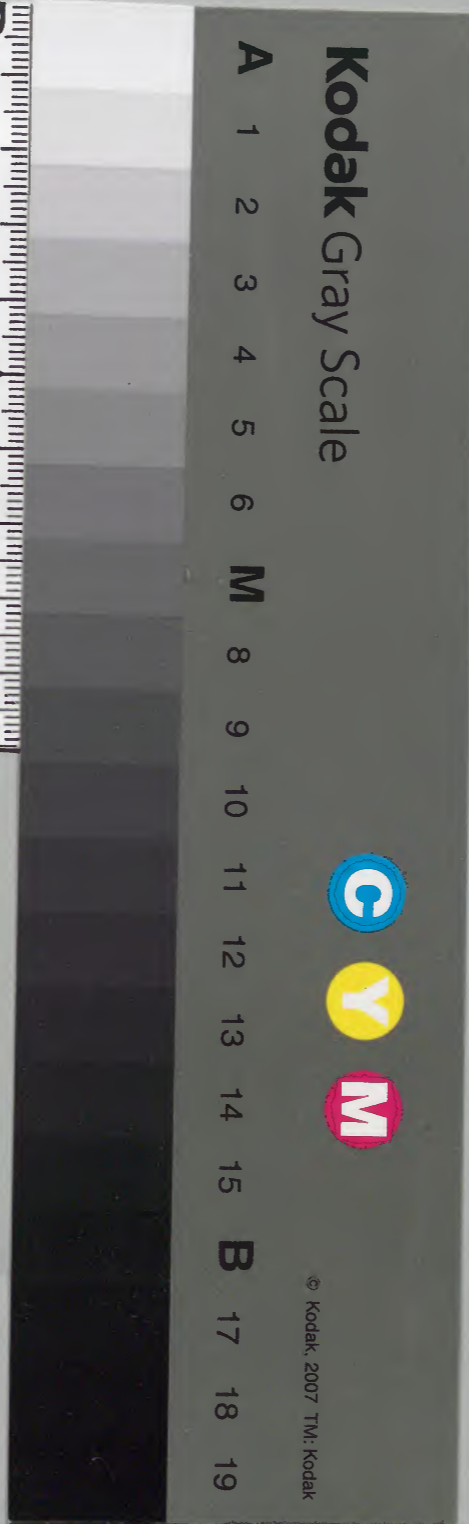


和書門			
二九	三一	二九	三一
函	冊	號	類
三五	一	三五	一
冊	架	冊	架

內閣文庫			
三五	二九	三五	二九
冊	架	冊	架
一	一	一	一
冊	架	冊	架

地五七

內閣文庫	
番號	和 29315
冊數	35 (25)
函號	175 172



福山志稿卷二十五

邑里第十五

内二一〇二五號

鞆津

福山日三町東西三丁南北七町

餘北原西平村ニテ十一丁四十八間餘

鞆郡ノ東南海中ニサシ出テ備後ノ南端

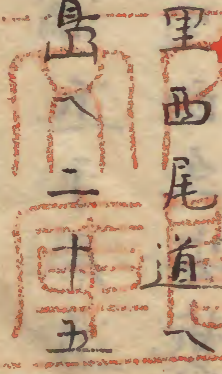
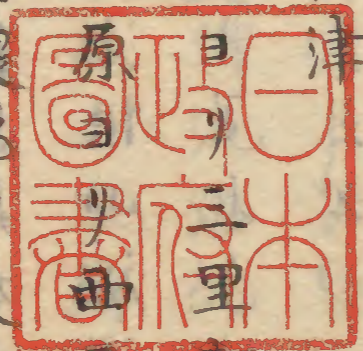
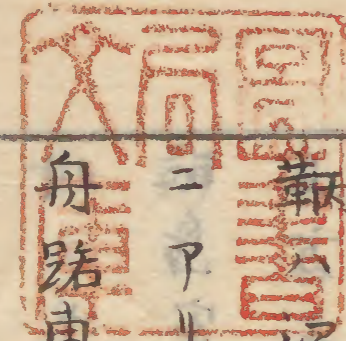
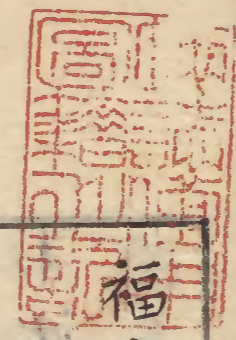
ニアリ東西往還ノ舟楫力ナラスコ、ニ收泊ス

舟路東白石ハ三里金毘羅ハ十里高松ハ二十里

阿波鳴戸ハ三十一里大坂ハ六十里西尾道ハ五

里三原ハ七里藝州忠海ハ十里宮島ハ二十五里

豫州道後ハ二十七里赤間関ハ七十五里肥前乎



戸へ百三十里長崎へ百六十里五島へ二百里和
漢三才圖會名所方角抄並ニ云韃浦近于尾道北
山南海寅方至備中下津井海上十里西至安藝蒲
川二十里末方至伊豫松山二十五里前備中誤備
能島家海軍傳書ニ云ととハ西風上ノ前上泉水
上方ノ霧島泉水ノ流ハカノ島玉島上ノとれ
視音聖海根山福祿寺下ノとれ大向神沖の方上
東風カノとあり地乃方に至るはカノ地立出
ノ流あり云云

國花萬葉志云韃浦尾道より一尾道を東西

を此宿より北の方ハ山之隈ニハ海より室野し
い山之隈よりありハ
漫遊文牘汎海紀行云距白石十八里有韃溼門韃
音獨木ニ合本射具之種蓋取其狀也亦一通邑古
來名干酒故亦有獻笑之賦云日本書紀云
河くとい川よ云あかくとい川ハ書ノ名也日蓮宗ノ僧
某カ著ストコ口述實ノ頃ノ人也
古より韃記といハ一書をその記ハ神功皇后西
國に行幸ありしハ舟船といハ海よとせさせし
ハ浦の名といハにと詔ありて夫をハ浦の名
いすことありしハヤろしと奏しんハ舟船

此とて伐つけのいぬせハ艦とこといふハこれ
しりこしハれ米宿とくこしりいしり浦の名
と来しといハ傳へし也と云又云いつれの所時
日ヤ國より兵具とめさせりいりるにハ浦よ
り鞆しいしものなる伐所感ましりいれハ
借りて鞆浦といひくさ云云日本事跡考ニモ鞆
浦神功皇后繫船ト云
備後志抜書ニ云ヲ抄ノ書イツノ頃何人ノ著セル
神功皇后三韓征伐ノ時御船此浦ニ着ク略此所
ノ名ヲ問玉ハハ浦人集リ此ハ吉備ノ南海部ト

奏スコノ時ニ鞆ト名クベシト勅アリシト云云
今按ニコノ片鞆ヲ用テ
神ヲ祭リ玉ヒシト云
鞆浦志曰志ハ福山藩臣吉田日野ニ氏風土記云
神功皇后征伐三韓而後以鞆納沼隈郡渡之地故
名此地曰鞆
同書云皇后三韓退治の後かの鞆と備後の神文
小納々々とれり名つくト云
大和本紀云神功皇后難波ノ浦ヨリ播磨ヲ過御
船備後國ヲ過サセ玉ヒシ時船中ニ御鞆アリケ
ルカ御船ノトモヘ飛上リケリ其後鞆三韓へ越

サニトテコソアルラメトテ御船ヲヨセ玉フ依
テ鞠浦ト号ス云云
大木今按ニ鞠ト名ツクルルノ教説ヲ以想像スハ
其ノ艦ハ船尾トモ注シ又船頭刺擢處氏注シ
同書トモト訓ヌ舟ハイツクニテモ頭首先キメ
ヨリ岬ニイタリテニワシテ尾ヲツクモシコ
林田レヲ以テ名トセハ水邊ノ地ハコノ名多カ
備前ルヘシ古ヨリ鞠ノ字ヲ用ヒ來レハ射具ニ
ヨリヨルノ必定ナリ神功皇后ノ西征越前ヨリ
委ニ開洋アリ長門ニテ天子ニ會シ玉ヘハ此ヲ

過玉ヒシハ歸陳ノ時ナルヘシサレハ風土
其記ノ説得タルニ似タリ武器モテ祭ルハ上
古ノ例也コノ片麿坂忍熊ニ玉ノ難クハ
鞠ヲモテ和多須神ニサシケ西征ノ功ヲモ
告ケ又前略ヲモ祈リ玉ヘリシニハアラス
ヤ海部沼隈沼前ノ下辨説ノ條ニ見ユ
鞠浦志云渡の北場ノ要害の端としちせハ
中よりくくりの末卷此あしと定も鞠の如し
しち又手乃明神ノ要害まゝ海邊方の航乃
おしと地航自好し射をに似たりとく往古

今按ニ日本圖ノ柄ノ字國境方角ノカヘリ
トイヘ氏山陽道ニアリテ明石高砂ニ近ク
豫州ニ對シタレハ鞆ノ浦ヲサス下疑ナシ
サレハ八雲御抄ノ柄ノ字緣故アルヘシ後
考ヲ待ツク
類聚和名抄ニ山城乙訓郡鞆園備後世羅郡鞆張
ト云地アリわくと川并ニ鞆浦志ニ古歌梁塵秘
本朝軍器考卷四日ノ神臂ニ稜威ノ高鞆ヲハ
キ給ヒシ下日本書紀ニニエタリ清原宣賢ノ抄
ニハ今ノ弓小手ナル由見エタリサレト古事記

ニハ竹鞆トシルサレタレハ始ハ竹ニテ作りシ
物ニヤ釋日本紀ニハ延喜式ニ見エタル神寶ノ
注ヲ引テ注セラレタリ式ニ見エシ所ハ鹿ノ皮
ヲモテ縫ヒ胡粉ヲ塗リテ墨ヲモテ繪カクヨシ
見エタリ須佐能乎命ノ御子磐坂日子命國巡行
ニス時ニ出雲ノ國ノ惠曇郷ニ至ニシテ國ノ形
畫鞆ノコトクアルカナトノタニヒシヨリカク
ハ名ツクシヨシ彼國ノ風土記ニハ見エタリサ
ラハ神ノ代ノムカシヨリ鞆ニハカナラズ繪カ
クモノニヤニサシキ物ヲハイニタシ子ト近キ

頃大神宮ニ進ラセラレシ御鞆ノ圖ヲハ見ル事
ヲ得タリキソノ形モソノ繪カキシモノモ共ニ
世ニイフ鞆繪トイフ物ニハ似テケリ世ニイフモ
モノハ水ノウツコク形ナレハ巴ノ字ヲ用フト
イフナリサレトモフキ物ニ皆鞆繪トシルセ
ハ但シ吉部叙訓ニ圖セシ所式ニ見エシ兵庫寮
ニテ作り進ラセシ御鞆モ熊ノ皮ニテ作レル物
也サレハ此物ハ熊鹿等ノ皮ヲモテ作ルヘシ其
中ヲ虚ニスルナレハ弓絃觸ルニ毎ニソノ音ア
リ萬葉集ノ歌ニ大夫乃鞆乃音為奈利物部乃大
臣猶立良思母ナトヨシシモ此事トソ見エタレ

應神天皇ノ御事ヲ譽田別尊ト申セシ御事御腕
ノ上ニ穴生ヒテ其形御母ノ皇后ノ新羅伐子給
フ時雄装シテハキ給ヘル鞆ニ似給ヒタリケリ
古ノ俗ニ鞆ヲ褒武多トイヒシカハカクハ名ツ
ケ申セシトイフ也日本紀古キ賭弓ノ圖ニ鞆ハキ
シ人画キシヲ見シニニコトニ腕ノ上ニ穴ノ生
ル形ノ如クニハアリケリ鞆ノ字ハ韻書等ニモ
見エス源順モ鞆ノ字揚氏漢語抄日本紀等ニハ
見エタレト本文イマタ詳ナラストイヒタリ又
蔣勳力切韻ノ鞆ハ臂ニ在テ弦ヲ避ル具也トイ

へルヲ引テ止毛ト訓シ又擧ニモ作ル也毛詩ノ
注ニイハユル拾ハ遂也禮ノ弓矢圖ニイハユル
遂ハ臂黻朱ノ韋ヲモテコレヲツクルトイフ説
ナト引キケリサレハ御臂ニハキ給フトイヒ御
腕ノ上ニ生フル穴ノ鞞ハキ給ヘルニ似タル十
トイフ事順ノ説トハ合ヒタリシカルニ鞞ハ箭
ノ事也トシルセル物アリ一覽心得又事ナレト
シカルヘキ人ノ説ナレハイカナル據カアリケ
ニ又順ノ倭名抄ニ黻ノ外ニ又射鞞ノ字ヲ出シ
テ説文ノ射臂啓也トイフ説ヲ引テ和名多末岐

一ニイハク小手也ト注シケレハ鞞ト鞞トハ其
用ハ同ケレ凡其制ハ異ナル物也サラハ又鞞ス
ナハ子弓小手也トイフ説モイカ、ア、ルヘキ説
文ヲ按スルニ鞞ハ古人以韋鞞袖取其使執事也
トアレハ倭名鈔ニ見エシ射鞞一云小手也ト云
フ物ハスナハ子俗ニ云弓小手也ト云フ物ナル
ヘシ鞞ノ字讀ミテ太沼岐トモ云フ舊事記ニ饒
速日尊ノ弓矢手貫ナト見エシ其手貫ト云フ物
即此物ナルヘシサラハ今ノ弓小手ト云物神ノ
世ヨリノ遺制トソシヘタル世ニイハユル子小

手ハ騎射ノ時ニサス事也其制ハ精好ニ裏打夕
ルヲ本トス或ハ縮ス、シナトヲ用ヒシコトモ
アリ緒ハ苜蓿草ニ條ヲ用フ指懸ノ緒アリ又指
トモイ又籠小手トテ綿入レタルヲ宿老ノ人十
トハ冬ノ頃ハ小袖ノ上ニサス事モ下ル也又籠
手トハカクヘカラサル事ニヤフルキモノニハ
皆小手トコソ見エタレ
今按ニコノ説長ケレ凡詳悉明白ナルユヘ
略セスシテ擧ク鞆津地形鞆ニ似タルユヘ
名ツクル説アルニヨリ別ニソノ形ヲ圖ス

公署

御奉行屋鋪

城山ノ下ニアリ

六郡志云板島の町乃奉行屋敷焼失一多門廐
のこ強さぬ小倉居ち未々奉りの時ハ御茶屋
に在る正徳中後藤新八との石湯とを以今
御茶屋ハ萩町新右衛門とス一先と云

御茶屋

同書ニ貞享の末ニ建ト云西町ニアリ

御船小屋并船道具藏

夕方場并ニ要害山下ニ在

在番小屋

原町ニアリ

牢

善行寺前ニアリ

遠見番所

わくと川よ延寶午年尾関佐次右衛門より先
く鐘とかあぐ時とつく要害山よありと云

申明亭

榜示十三枚関町ニアリ榜示五枚要害ニアリ

街市

道越町

七ト満越ト云わくと川よじり大可島のう
くい岨傳ひよて大瀬しりよ日とよく西へ
くらふえと裳かゝ氣わとそくくくくしりこ
えし云

西町

六郡志云ふにむろ渡社あり孝長此頃麻
谷巽へう川に今札の止と云

江浦町

あくと川に福島止則代處に枚塚と築して町
割縄張せしむる造軒とせしむるといふ

石井町

六郡志に井方五尺石とありしにあり因る名
つくとも云

關町

あくと川にいくさありし時ありに関と名
しる名つくといふ鞆浦志に此時旗とあり
せし處と旗の跡といふに此町乃濱にありと
云

鍛冶町

六郡志云慶長此ころとハ人家少く平沙に松
二三株あり毛利臣村上助康下屋敷とせしむ
後福島新城と築く臣大崎玄蕃と置きたり因
平傳之と命しむる石井町のありと云

○

又本朝鍛冶考に貞次正信御宇應永貞家御

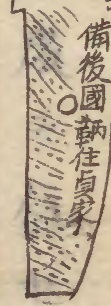
御門御宇正真門人宗貞後相原貞廣宗

備後國鞆住ト銘ス宗貞貞廣宗

今此四人三才一族三原正家三

初出此ト云貞家依此ト云貞家依

圖甲



備後國鞆住貞家

貞家依此ト云貞家依

あくと川に福島止則代處に枚塚と築して町
割縄張せしり予造軒とせしりといふ

石井町

六郡志に井方五尺石と名しりしりあり因る名
つくしと云

關町

あくと川にいくさありし時ふに関と名し
り名つくしといふ鞆浦志に時旗と名し
せし處と旗の崎といふこは町乃濱にありと
云

鍛冶町

六郡志云慶長此ころとハ人家少く平沙に松
二三株あり毛利臣村上助康下屋敷とせしり
後福島新城と築く臣大崎玄蕃と置きなり因
て傳之丞に命しり石井町のあとうつさし
これり鍛冶といふ錠とら名産とせし
るに名付くしと云

今按に古刀銘盡に家次負治負次應永
朝次應永朝次一家信次文安負家朝次
鞆に何處に住せしや○

東照公備後鐵力タシトテ 命シテ盾ヲウタ
セ玉フテ大坂記ニミユ 古松老人ノ詔也晋帥
イマタ其書ヲ見ス

原町

渙人多ク住ム

大黒町

六郡志ニ水野猪負イキト家ジケ玉んキ時
山ノ北トシル寛文ノ末ニ板山ニ板足あり法
年ノ萩野新右出ツ居住セ酒井七郎右出ツ年
リ乃時法士虎お流ノ町分ニ成ケリト假治町
松尾といふもの申流ク町家と云ハこれ大黒

八町也し云

有磯町

遊女町也

六郡志云道越町乃内カレヤノ上後道城と云
昔伊豫人官内といふもの建トクノわくと川
ノ寛永の末川ノ上ノ道乃いノ里ノわくとノ家
庭をくむしともつれノわくと海乃濱の島砂を
くこりくれともといふ款ニありノ名つ菜ノ
ノヤトニノ水野記ニモト阿弥陀寺ノ側ニテリ近比コニ移スト云
今坂ニ奴可入道西寂コノニテ捨ニセラレ

平家物語ニユ本間孫四郎遠矢ヲ射
 上トキ將軍筑紫ヨリノホリ玉ハ鞠尾道
 ノ傾城ヲ召具セラレント呼ハリシト大手
 記ニシユ又五山僧ノ入唐セシカ亂後ニコ
 ヲテ歸船シ遊妓不知此國事浪舟猶唱竹
 枝詞トイフ三四ノ絶句ヲツソリシヲ記ス
 其人ト全篇ハワスルサレハコノ妓家七年
 久シキトシユ西寂カ事古戰場條ニ出ツ
 町家敷
 八町一及三畝二十二歩

歳額
 二百八石七斗八升五合
 外三十一石二斗六升八合海役米
 戸口
 戸子三百二十七
 口四千六百三十四
 内女二千二百七僧四瞽十四
 舟船
 商船三十七艘
 渡舟九十六艘

武井溝渠

小川二十

一派麻谷ヨリ出鍛冶町ニ十カレ溢ニ入ル

一派西浦ニアリシ十小澗也

井二

柳川今川等ノ名アリ川ニアラス柳川ハ天和

ノ末尾關佐次右衛門鑿リ今川ハ寛文ノ頃中

村市右衛門鑿ル六郡志云寶永ノ頃大宮監物

ニシ云もの遊世も二人この柳川ニ身と投てし

り云らく水と汲人々し正徳の頃又男女身

と投けいよくくむ人々

池塘

小池二

手村ニ

橋

榮橋

鍛冶町ニアリ舊名極樂橋ト云

韮浦志約束橋延寶庚申尾關佐次右衛門架

し云ノ橋ナル

化野橋

同書ニ寛文中石井町胡屋が架かる所と云ミ
小十小橋ナリ
耳語橋
同所ニアリ地ハ原村ニカリ心相傳ヘテ鞠源
左衛門ト云人アキヒトユキ、ノ人ヲカトハ
スニコ、ニテサ、ヤキ賣ニヨリ名ツクト云
鞠浦志ニコノヲノセテ古記ヲ尋ルニ鞠源
左衛門正友ハコ、ヲ領シタル人ニテ人商ス
ヘキモノトハニユスト云事總叙ノ所ニ出ス
同書ニ又或物語ニ中島源氏事つしと古珠山

の乾乃方ニ任人あり何某中將の子と賣ふる
事ありんば刑罪ニ違ぬ鞠源氏あつた名ハ
所の人忌と名つけと海と名つけ事ありん
茶も名付しゆへよやんとてけ種とあへりと
いひ来り公れハヒとヨリと浦中け名とつく
人としと云云
今按ニちりしらも多言くしと渡る武さ、
心此の橋とさまれるしとトイフウメハイ
ツノ頃カ遊行上人咏セラレト云耳語橋
ハ府中ニアリ歌書ニモ之工メレハ名所ノ

歌ハソノ所ニ出セト此歌源左衛門カ故事

ヲ用イシトユレハ爰ニテヨメルハ

山溪

高戸山

平村ニアリコノアタリニテ最モ高シ

葦山

能登原坂ノ前ニアリコノ名國中ニ三所アリ

辨説ノ所ニユ

嶺四

休崎

能登原ニ通ス大松一アリ扇松ト云

能登原坂

能登原ニ通ス

一ハ原ヨリ山田ニ通ス

一ハ同所ヨリ横倉谷ニ通ス

石

三石

手村道側ニアリ此石ニ腰ヲカケルハ必ヤ

麻

孤崎

手村ニアリ此所狐多ク簇ルトテコレヲ見ン
カ為ニ酒肴ヲノセテ毎遊スル人アリト云
浦志ノ昔四圍ノ狐狩アリ狐多く浪ノうかひ
来リお小着ト云此四圍ニ狐ナレ六郡志ニ
此邊ノ赤滑キ石の狐ノ似ト云わんせれ
りり名と伝説の方よりいれ宛細し又え
しか寶曆の頃嘴折れて海ノ岸トツハ心とつ
けされし知れかといと云

百貫島嶼

大可島

周二丁五十間南端ニ遠見番所北端ニ圓福寺
アリ此島今ハ陸ニツキ人家トナラヘリ

洲上島

周四丁三十七間スカル島トヨフ

玉島

周四丁三十四間玉津島祠アリ此アタリ河豚
多シユハニフクシト云シヲ福島ノ片今ノ
名ニアラタム

百貫島

周二丁四十間

仙醉島

周四十七町十二間田浦彦浦大松浦明神前深
山尻コカキ浦經カ崎七浦各惠美須アリ俗説
正ニ手相國嚴島ヲコ、ニ移サントス島狹クシ
テヤムト云外ニ大浦赤崎浦小松浦月見山牛
首等ノ名アリ此島面背カメナカハラス一名
面向不背ト云
皇后島
大周六丁一名向江島

躑躅島

周四丁四十間明細書ニ云ムカニ筆貝多生ス
今ハナシ

礁九

四郎三郎硯

皇后島ノ北靫ヨリ東七町ハカリニアリ靫
浦志云昔四郎三郎といハ船長大石とつこ
一艇とのよりけせん、こりくその石とお
し、すゑ艇と、うかへんれハイヤリ、
一よ石かさりり上下の艇とこれん海、あ

し世こんくりりよけり名つくは後沈遊撃
ふにきとアヤミ此船乃煩とやおもひ
けそ石と建させぬれと是とあは波よは
此ぬ寛永の末萩野新右衛門と三石の木
ととくくこれも今いふ六郡志に標木
朽しぬらハ西諸侯乃往来に幟とをりし
然る處と云しと云近頃ニ夕標木アリ

涌出砦

江ノ浦ノ沖ニアリ六郡志に保命酒屋の下
ありと云

鷗砦

皇后島ノ南ニアリ六郡志に島より西方に
ありと云

檣岨

韮ヨリ二丁六郡志に系町乃沖に有一名島

崎

明細書に仙酔ノ南端也ト云

出石岨

韮ヨリ半里ハカリ又油岨ト云明細書に官
船ニハ番船ヲ出スト云

中石岨

中明細書ニ乎村ノ民家ヨリ百間ハカリ沖ニ
アリ是モ官船ニハ番船ヲ出スト云
亀石岨
六郡志ノ乎明神ノ下ニありト云
觀音出岨
明細書ニ梨瀨ノ沖ニアリ福禪寺ノ觀音堂
的ニシテ乗ル片ハ舟碍ハラスト云
年取岨
六郡志ノ要害ノ下ニ巳午ノ向ニありト云凡
礁鞆浦志ニ五ツ六郡志ニ六ツ明細書ニ六

ツヲノセテ異名一ニ非ス再考ヲ待ツ
廟墓
渡守大明神
延喜式ノ載スル所備後十七社ノ一沼名前神
社是也闔境ノ生主神ニテ祭神ハ豊玉彦命ス
十ハ千海神也或ハ道祖神ニテ隱岐島知夫利
神ヲ勸請スト云諸説辨説ノ所ニ詳ニス鞆浦
志ノ往古ハリをヒ礼乃止ニ鎮坐也後福島
正則當浦町ヲリあり十時麻谷ニ遷坐又貞享
年中今ノ宮所ニ鎮坐ス六郡志ノ水野勝負

祇園宮

公明曆年中中村市右米つゝ一畝一畝再興ト云ふ
ト云祭禮八月十三日二三日前ヨリ隘境家々
造物ト云丁ヲナス各店頭へ人物每船鳥獸花
弁等ヲ製シカサル水野記ニ社領モト十五母貞正和三年國守貞馬
守ヨル所毛利弁收ニル證文ハ今ナホ在下云

諸書ニイ千ニルキ疫隅社是也祭神素盞鳴尊
奇稲田娘八王子ノ事疫隅ノ號鎮坐ノ時代等
別ニ説アリ詳ニスあくト川ノ鞞祇園ハ八百
年チ天長年中創草ト云マシ一リモ時々一しめ
く御話ト云あつたにじりけ園町のうらにあ

里ノ代々時以地ノ移ノ事モ其跡を休巻とい
ふ今もは彼町ノあり或々保元年中に御話ノ
事ト云とい一り天長ノ保元ノ三百十餘
年保元ノ延慶三年庚戌ノ百七十餘年に
あつた沙汰道照ト云人再興又百三十
餘年の後永享十年戊午に讃州白山ノ沙門心
物靈夢を蒙リ再補す後百六十餘年ノ一
至長年中海苔此時其後岡平傳之丞以地此
川ト云舞臺を立三十六歌仙をかく歌ハ福
島此祐筆其ノ筆也云云六郡志ト云傳之丞云

版とたけりし

勸浦志に寛永二年乙丑に當國前大守水野孫
重兼表を立奉る三年庚寅に水野孫兼入道宗
休ありしに一口の華鯨を誘ておさむれり
き四年辛卯に水野孫兼貞石燈籠を寄進し
云云
あくう川にけやけを祇園とりしことは昭
宣に京都の社を興りしに水野孫兼精舎とや
らむに建りしに祇園精舎とりしに熱湯ありハ
祇園といひはしるるより何れもそれ

準しそぶのさやけを祇園とハ呼りしとな
り云

六郡志後増録に松岡仲長云宇佐の勅使當
初ハ毎年立られしを費多しとて公卿一人宇
佐より下し袖を免てその代りに彼勅使代二男
あり一人社職を司りしとて末に乃不り
初ふその時祇園を勧請して降るに勸よて難
風よあひその神祈をいしにて山下にやと
風の収をもち敷いとてはるる後宇佐に祇園
社を建て年經くしに上京しるときは子をた

そひかしてあゝとと祇園と勅符は是出のや
しるれをいれりしと宇佐八幡縁起のせ
たりとりよ

今按ニ仲良ハ尾張ノ人神学ニ名アリサレ
トモ臆説虚誕多キ人之トキ、之故近頃豊
後ノ友人某ニ托シテ此條ノ實否ヲ宇佐ノ
祠官ニ質問セシメシニ即祠官益永筑後守
ト云人ノ答書ヲ傳送シテ此條ノ虚説十
ルノミナラス公卿ノ子ヲ下シ極シメテ勅
使代トセシトモ宇佐ニテハ古來無キトシ

ト云ソノ書長ケレハ載セス

鞠浦志ニ云昔より神ありし月次乃連歌あり
元和年中迄ハ真似せり神子の能も絶て久し
く有りぬると寛永年中萩野新右衛門水野七
丹毎ニ踊を催し其後乃ち中村市右衛門あり
聖徳後ニ啓し美治年中不整昌とういふ
とワシりり此處分明ナラス社中ニ蔵タル
假面ヲ祠官ヨリ猿樂ニ渡スコ
ノ中低聲ニ唱フルア
リ或ハソノ詞ナルヘシ
六郡志中村市右衛門斎庭をこて、神能を
延宝の末祇殿大破しあゝい角のし修

六月七日の曙浦の氏族猿田彦の面して後前
追し〜乃あ〜まゆらせたま〜といふて過
る天皇これ一系らせやあといふを子成今の
神事と拭ま新とと言事あり是等とくさ新と
呪をさ也此面と玉鼻といふ流柿屋とりふと
の供物を系成すハ獲民物来々粟飯をさゆら
せし例也と云 以上勸 神輿六月四日夜ニ舞殿
へ出せ七日ニ行廟ニユキ十四日宮ニ還ル七
日ニ通物ニ名ヲト云物一ツヲ出せ十四日御
山ト云物三ツヲ出ス京都ノ山鉾ト云モノニ

似夕リ十八日ニ神能アリ正月十五日菟河戯
アヲソノ大縄ヲ早朝ニ社頭ニサリ久何ノ故
ナルヲシラス六郡志ニ進雄神流柿屋ノ先祖
此宅へ入玉ハ一時の例として神輿と芝の上に
とくハ云ハ平ハ吉ハ神ハ十ハ

八幡宮

正月人日ニう始メアリ歳除ノ夜氏子聞テ
トリテ耦ヲ定メリレニアメルモノ元日ヨ
リ齋沐ス此外四小社並ニ祇園境内ニアリ
末社也ト云寛曆二年ニ又菟荷ヲ勸請ス

寶物

大刀

奉寄附備後國鞆浦 祇園精舍御寶殿

神五當國大守

從四位下源勝俊之嗣

備前守勝

九節負

慶安四年三月吉日

備後福山住人兒玉 藤四郎國吉作

小刀

奉寄附備後國鞆津 祇園牛頭天王

同國大守水野日向守勝負

明曆二丙申十一月吉祥日

備後國福山住國次作

神樂筒

猿樂ノ鼓ノ胴
之別ニ圖アリ

奉寄附 備後國 沼隈郡 鞆津 祇園牛

頭天王御寶前 神樂筒 十種作

小刀

祇園宮御寶前 於備州鞆 重記鍛鍊之

延寶六年正月吉日

馬角

天和三癸亥年

祇園宮御寶物

正月吉日

奉寄進 坂井義兵衛尉寄宣

内家二重寄進 上田十郎右衛門尉吉重

外家寄進 西町渡守講中十五人

牛玉

鹿玉

翁面

外箱内ニ永禄八年六月吉日中須賀新左衛

門定次判トアリ假面并ニ箱別ニ圖アリ

鐘銘

賢君垂手

新鑄華鯨

子鈞重器

彈指圓成

蕭寺復舊

祇樹敷榮

東敵西擊

迎來送行

蘆花月白

楓葉霜清

容船愁破

萬戶夢驚

神人幽贊

龍天證明

洪音不盡

永鎮江城

宗休侯納

玉七之鐘銘

八壘江作

之序

八韜浦志

ニモ略ス

此人溢美掩善

ノ詞多ク

淀姫大明神

祭神罔象女神

平村人生土神也或ハ神功皇后

ノ妹姫ト云辨説ノ所ニクハシテハ中ノ事司
住吉大明神

原村生土神

小鳥大明神

鍛冶町ヨレヲ祭ル三條小鍛冶ヲマツル所

也ト云六郡志ニ神体ハ大刀の折を爲す所

鳥ト云銘ありは神犬と使者ト云々ト云

ノ以氏子犬を折ことと禁地ト云

辨財天社

関町ヨリマツル百貫島ニアリ

玉津島大明神

江浦ノ島ニアリ

荒神

平村ニアリ

小社十四

内愛宕一社尾關佐次右衛門建醫王寺ノ後山

ニアリ

古墓

節山ニアリ右ニ元和十左ニ二月廿三日ノ

字

りしは一説ニ筑前ノ茶博紙屋宗且ト云モ
ノ太閤ニ名護屋ニ侍シ伏見ニテ從ヒユキ一
妓ヲ買テ歸ル妓舟中ニテ病死セシヲ錢百貫
モテ此地ヲ買ヒ葬リシ塔也ト云

塔寺

福禪寺

海岬山真言宗大覺寺末寺開山空也上人
寛永十五年嵯峨大覺寺二品法親王嚴島ノ指
多山ノ上ニテ修業とモ一住持榮觀ニ依
テ直末トシテ觀音堂とのミトシテ

浦本分の地と領せしり永録ニ大覺あり文禄
此頃ハ寺領も地住持する傍りりりぬ法
下榮高といふ人季長十五年ニ再建し福禪寺
と号す願乃寺院ひりり地祖とハハ
りしと寛永中水野侯々ノ除免あるひりハ
他宗ありしか榮高再建乃時ニヤヒの宗とカ
ニ延喜此頃沼隈郡ニ長者あり新庄太郎と名
つく西國寺舊記といハ新け人一人乃ひす先名
と明子といふり天下無雙の美人なれハと
乙村上天皇 六郡志ニ朱 兵治の命婦トシテ大

江房時と凡に倭後に送され人とも都へむら
へり先五條命婦の宅に憩はし先程なく入
内冊立しく妃と一清涼殿の東と點して寢不
と一々一一年ありとて皇子誕生後しま
しるるさて妃のつゝはくがりしれ
観音堂と建し事以れし明子と観音といの
云と天曆六年壬子六郡志云空也上人の
て一字の伽藍と建し先年か也所々に七ヶ
所比大伽藍といふの寺との一ツ也云云此
説此寺の縁起の略也わくと川鞠浦志六郡志

藝備古蹟志等二略し舉る所亦同ヶ云ハ要
ヲ摘テ記ス然凡疑多シ辨説ノ所ニ詳ニス
水野記三毛ノ朝ノ田十五貫備中繪師村ノ田十八貫ヲ領スト云々ナシ
寶物

牛玉
應永年中金剛山ヨリ出
矢根
能登守教経所持
古錢十萬匹
新庄太郎寄附此外多ケレ凡略ス
對潮樓

樓ハ福禪寺中ニアリ前ニハ島嶼遠近ニ斷
續シハルカニ讚豫二州ノ山ツラナリ左ニ
内備中ノ島嶼ナカクサシ出楮石モテ色トリ
シ如ク海ニ濶處アリ狭處アリ舟帆點々ト
大シテ往來スエナラヌ好風景也鞆浦志云正
徳元年辛卯秋九月朝鮮聘使李邦彦南岡ト
ナシ小人風景の美と賞歎して日東第一形勝
と云六字と云額となりて掲ぐとの額今
猶り李邦彦字美伯朝鮮完山人官通訓大
夫行弘文館校理知制教兼經筵侍讀春秋館

紀注也日本に來り時ハ後事といふ役ニ充
りて其後寛延戊辰の夏朝鮮聘使秋七月歸
帆の時正使洪啓禧副使南恭後事曹命未製
述官朴敬行書記李鳳煥拂迄李命啓此寺ニ
あといひ右序と題し空包と云す此時洪宗
海とて對潮樓の三大字と書せし寺僧
ニ歸りて扁額せしむ其他曆代韓使の詩文
甚多しと云云
今按ニ日東第一ノ額ヲカキシ時ノ事ヲツ
クハ聞カル人アリ正使ヨリ記室等教人ヲ

ノヲノ庭上ニ榻ヲ移シ互ニ指點評品シテ
坐賞スルノ程久シク後ニ彼六字ヲ書タリ
ソノ意ヲ通事モテ問シメシニコ、ヲ無雙
ノ風景トハ既ニ朝鮮ニテ聞ツタヘタル
久シ然レ凡外ニ匹敵アラニヤト聞東ノ往
来ニ眼ヲツケシニ真ニコ、ニ勝レル處ヲ
述ス十六日存シル處相違ナシトテハ
議定シテカク書タル也ト云レヨシ十六日
トハ八人ヲ云也然ルヲ通事ハカス十六
日然レカニト問カハシタルハ韓人大ニワ

ラヒシト通事カタリシヨシナリ蕉中和尚
五山碩學韓使筆語ニ南時韞云向登備後對潮樓
榻日東第一海山今見和尚榻日東第一高僧
云云時韞ハ寶曆十三年癸未ノ驛使ノ學士
也東文選ニ朝鮮ノ朴瑞生ト云モノ應永ノ
頃日本ニ来ル詩ヲノス義滿公ノ寸ナリ
奉使日本有感
一飯聊申一祝辭君恩偏重遠遊時盤餐日々多
兼味尊酒時々滿大庖異卉幽花隨處好回山曲
水到頭奇不因奉使來東域天下奇觀總不知

今櫻ニコノ時日本ニ来ルハ今ノ京ヨリ東
ニ往カス又長門以西ヲモ經ス天下奇觀ト
云所山陽沿海ノ郷十ルヘシカレハ南岡カ
輩ノ地ノ勝ヲ朝辨ヨリステニ聞知スト
云ハムカシヨリ傳ヘタルニテ元和以後
信使往来ノハシメテシリシニハアテカ
ハシ

題對潮樓

西成齋名潭明肥
後人學術

正シキヨシニテ寛政中
幕府ヨリ廢金ヲ賜ハル

對潮樓外畫清和諸島如星拱補陀知是嘗登韓

使者日東烟景此臺多

登對潮樓

已カ
杖日

中谷宗明播州人

西溟為客日一倚對潮樓鏡裡暗千嶂欄前渺四

州觀濤偏賦興送雁忽鄉愁不堪情斜陽盡上方明

月杖

寄題福禪寺對潮樓

梁田邦鸞字藥夫
赤石文

学蛭岩先
生二男

鞠浦之濱有梵臺東南吞海望雄哉四州潮湧雲

生檻三備天開月照杯騷客停舟擣藻盛高僧揮

塵雨花催無由到此仙炊境夢繞滄溟勞教四

寄題對潮樓

伊藤縉 字君夏 播摩人

岩崑高架對潮樓 目極東南大海流
曲島翠連僧倚檻 遙天雲盡客催舟
一雙鳥影清波夕 百點漁篝水寺秋
未卜西遊何日是 蹉跎微口幾回頭

同前

清絢 字君錦 播摩人

海畔岷峴古梵宮 莊嚴樓閣倚蒼穹
高僧臘舊塵緣盡 彼岸秋深色相空
四國風帆飛鳥外 中原雲樹夕陽東
登臨何必勞杯錫 露地牛車自在通

題福禪寺閣

赤松鴻 字國鸞 赤穂人

高閣登臨無浪情 漫遊暉暮嘆虛生
回頭便欲題

名字滿目風烟画不成

登對潮樓

變通

形勝乾坤窄 携琴人倚樓
仙禽花木茂 天女朗吟
浮印海韓王 額置空楚客
舟過遭春暖 動堪賦對

潮流

登對潮樓

林章達 本州人

對潮樓下水漫々形勝千年插大觀
海濶名區連遠近 天庭征帆映峯巒
廣陵濤逐斜陽落 牛渚雲懸片月寒
坐愛風光隨處變 教州盡入掌中看

同

壽恒 本州人

秋海高樓勢自雄
欄頭徙倚望何窮
東來仙嶼晴堪画
南畔鵬溟晚更空
幾點雲帆漁唱外
十方天籟梵音中
幸吾此地懸孤錫
時有詩傳吟酌同

登對潮樓作

篠原言察

惟山積樹石此美
鍾江樓蒞翠兼潮
映舟帆併影浮雲
從時景物人倚夕
湯洲備藝介星次
讚阿辨指頭登臨
何限意語句或將
休幾日攀孤翮南
暝致漫遊

以下朝鮮人之詩

辛卯歲除日東槎歸客次唐律韻題于福禪寺

曾於重九日過此故篇中及之

朝鮮國從事通訓大夫弘文館校理知製教

李邦彥南岡

海畔岬嶠百尺臺
寺門高傍白雲開
寒潮極浦烟

光淡返照遙山雪
色未落帽曾成佳
節飲歸帆猶

趁舊年回天涯此
日真堪惜強舉樽
前拍酒杯

辛卯除夕平泉題于福禪寺

曾於重九日過此結句及之

朝鮮國正使通訓大夫吏記日參議知製教

趙泰億平泉

縹緲鰲頭最上臺
八窓簾箔倚天開
烟生極浦斜

暉斂雪罷遙山霽色未海內幾人能此會天涯遠
客得重迴杖風不盡登高興又醉新年柏酒杯

辛卯除夕東韓諸庵題

朝鮮國副使通訓大夫弘文館^典翰知製^制教

任守^許翰諸庵

天涯歲盡客登臺大海遙山極浦開征櫓曾隨杖
月過歸帆今逐夕陽未空洲石出潮初落絕域春
生雁欲回賴有諸公同此會不妨終夜罄深杯

福禪寺樓次杜工部韻

前輩來槎至人人說此樓海低何所極樹老與同

浮孤自留吾客子燈繫郡每鐘鳴猶未起河漢已

西流

朝鮮國通信正使澹窩芝寫

題寺樓

東南形勝地第一此高樓浩々天無阻飄々岬欲
浮長風吹素月孤燭繫歸舟半夜清虛界新杖又
火流

朝鮮副使竹裡稿

夜上福禪寺次杜少陵韻

滾々難窮水搖々不定樓月迎歸客上山對老僧

浮天海他無物旗旄獨有舟憑欄望不盡宸北夜
雲流

戊辰七夕後會朝鮮通信從事題

大夜登寺樓

所過便萬里今夜又登樓海月侵庭出秋山升檻
浮空明僧在水今古客停舟坐久潮聲裡還疑岫
盡流

戊辰初秋海皋李命啓子文章

西福禪夜坐

積水三韓客秋雲百尺樓僧依龍氣定月與磬聲

浮浩劫飛僊夢明晨錦帆舟東南第一勝少坐作
風流

朝鮮濟庵李鳳煥聖章草

寺樓夜坐

名下無虛士果然第一樓與龍杯外靜星月鏡中
浮雲翳千峯樹天低萬里舟藤蘿歸路黑燈火映
寒流

戊辰秋及求竺洪景海叔行稿

題福禪寺

西歸萬里客東極百尋樓差信滄溟濶還疑大地

浮濤聲潮送月燈影岸維舟夜色如何似坐看河
漢流

戊辰孟秋醉雪柳迨子相草

吳福禪寺次杜工部岳陽樓韻

重々山海曲繫纜有高樓島嶼隨天遠星河與岫
浮村分離合水燈曳去來舟莫惜歸時晚遲々沂
月流

戊辰初秋矩軒朴敬行仁則題

吳福禪寺

脚踏扶策盡西歸始此樓蒼松留月近白塔共雲

浮華額知誰筆新秋又客舟岳陽果何似刺得大

名流

戊辰秋信使幕府李吉儒士迪稿

以上友人某ノ録シ藏ムル所原本ヲ寫シ夕

ハ其ニニ記ス

寶曆十三年聘使ノ片學士秋月書記龍淵力

柴山七郎力韻ヲ次ケル詩ニ對潮樓ヲ第一

樓臺トス因テコトニ附ス此外朝鮮琉球等

ノ詩多ケルトモ皆略ス七郎唱和ノ下ハ淨

泉寺ノ條ニミユ

秋日

雲心脈々筆相傳已識津良楚產賢第一樓臺禪
□寺月明渙火島雲邊

龍洲

鵬雲龍雨涵滔々第一樓臺引興高恰似西湖乘
沼隈郡鞆津外弄輕濤

安國寺

瑞雲山濟家宗妙心寺末寺開山法燈圓明國師
鞆浦志々光明院曆應中國々々安國寺と建さ
せり此寺當國此安國寺也建立ハ尊氏將軍

曆應二年已外也以下不詳亥毛利輝元再興

殺生禁制の地と云云地藏堂と三韓征伐乃

時釜山浦とあり石佛と取返ありにすて並

とすと酒井七郎右衛門尉と云と云云六

郡志と七郎右衛門尉此浦と云法成と云と

とのに過料と云させけと云と云又云

法成永仁六年十月十三日九十歳と云死す

元亨釋書に見るる曆應とハ四十餘年前な

れハりより

長壽院殿仁山義公大居士ト云位牌アリ尊氏

秋日

雲心脈々筆相傳已識津良楚產賢第一樓臺禪

□寺月明渙火島雲邊

龍洲

鵬雲龍雨湖滔々第一樓臺引興高恰似西湖乘

月舫湧金門外弄輕濤

安國寺

瑞雲山濟家宗妙心寺末寺開山法燈圓明國師

勅浦志之光明院曆應中國々々安國寺と建さ

せり此寺當國此安國寺也建立八尊氏將軍

曆應

慶長四年己亥毛利輝元再興

放生禁制の地と云之地藏堂と三韓征伐乃

時釜山浦之ありし石佛と取返さるにすて並

とすと酒井七郎右衛門尉といはれし云云六

郡志之七郎右衛門尉此浦より法度よりいさし

とのに過料と出させけきとてしと云又云

法地永仁六年十月十三日九十歳より死す

元亨釋書に見るより曆應とハ四十餘年前な

れハりしより

長壽院殿仁山義公大居士ト云位牌あり尊氏

也
今按二寸籙地理ニ藤波記ヲ引テ安國寺ハ
北條時賴諸國ニメツルト云其說是也又寂
室集ニ安國寺ノ事ヲノス年月尊氏ヨリ前
也況ヤ尊氏一生枕ヲ安クシテ麻ル暇サエ
十ク當時南朝ニ從テ國三十ヶ國ニ及ハン
安國トスリハ上ニ直義ト兄弟直冬ト父子高師
直ト君臣味方ノ内ニテ爭戰タエスイツハ
片ニカ遠國ニ寺院ヲハ營ミルヘキサレハ
伍牌ハ後代ニ設ケテナルヘシ此人ニ仁義

尚二字ヲ謚トセシハ及語ナリヤ
六郡志云水碓家北村松永兼天寺萬國和尚也
此寺の後任よせむとせしけよ六ヶ寺末も兼
引せすして訴よ及いそ後輪番おしして任お
りし釋迦堂古像頗奇也圖ノ所ニニユ
寂室語録寄濟禪人書アリ曰
昨日至安國寺一宿齋罷當歸明禪早晨偶檢點
行李忽得前日見惠綿襖且驚且愧竊忖已行解
尋常同衆受用底粥飯尚其恐異時鐵丸銅汁也
何況別領常住巨費乎不是虛飾謝遣而要求無

貪之譽實愧龍天鑒哉耳今令抑而受之更增地
獄業因豈是道人所以推及法友之義哉重取回
納望慈容只恐有負諸兄厚意慚惶之極不宣
和今按二和尚歌島吉津之間二往來スルノ久
クテハハニハニハ此ニ來宿アリシナルハ
泉郎子のすきとト云ハ一時軒ト云人ノ記行
也ソノ中ニ安國寺といハ一ノ梵刹ありいら
やふ此所ノち祿房花木ふくまじく南禪和
尚來おの頃ニハ一鳥藤とかげ月下の門と音

つれづれとせりしと云一ノ一時軒名
ハ惟中姓ハ岡西紀行序ニ安居于因備之間近
移居於難波江曲ト云一ノツクハ人ナレヤ
正法寺
大雄山開山守竟首坐
勝音寺
龍泉山開山法燈國師
慈徳院
大悲山中興得松禪師
静觀寺

正覺山開山彦覺禪師

禪照寺

佛日山開山妙蓮西堂鞠浦志云寬永中水野多

門建之

小松寺

萬年山開山曇叟花禪師以上六利ハ安國寺ノ

塔中也鞠浦志云曇叟ハ安國寺六世の住持也

或説云嘉永二年平家都落の時小松主盛次男

新三位資盛付浦よ来久別後する事月餘主

盛の爲み竹西よ諸時よ墳墓を小松と植る

して曰ふまよして又よ後るといふ一と

以深氏と拙き天下と復さきことと祈る願ハ

くは力と合包とまよと依て小松寺と号

す存世得て主盛子植といふ云云庭ニ怪松一

重盛手ツカラウエキヲ又一説又安元の表内

府鎮西々妙傳と云船頭と召て金三千五百

兩内五百兩を此よわとふ一三千兩ハ宋公

音王山仏照徳光禪師よ送り家存生ととら

い々ハらし事以乞としてをさ保ぬに主盛の

石碑宋國よわりの金りこの時内府潜よ鞠

を下りたりいしと云主蓋ハ治承三年と壽四十
二景く辛すけ寺禪宗なるもいゝか開山禪
師重盛くハ後代人なり不審也後尊氏將軍
三百餘騎すけ寺に津取時舊記も實あると云
とく紛失す唯残りのハ松なりなりして小庵
と稱ひけ禪所と開山とす縁起後中其寺にあ
りしと云以上鞠浦志六
郡志等ニユ
今按ニ舊記寺寶紛失せしと云ハ金谷經氏
力戰ノ時ナルへニ尊氏入寇ノ片ナラハ首
トシテ人心ヲ収ル時也カ、ル濫妄ノフル

六郡志云天長のじり祇園社と今の地と極
すも頃とハ社地もけ境内ありハ氏子ども
乞請す社地となりルると寺ハ多岐此内と
あり寛文の頃瓶洲の士根治丹波といふ者爰
ニ訪主蓋の牌とるなりて位牌はなれた疎忽
也其寄附す一として新ニ彫刻且供養して細
じい、ぬる由緒ありやとの云
小松寺及贈一品内大臣淨蓮尊儀
其後主蓋剝落すとの像と持来りて納一人

同書ニ載ル重盛ノ像圓頂黒衣袈裟寺ニ念
珠ヲカク小松内大臣三位重盛入道浄蓮ト書
ス
松梅論ニ爲軍四國九州法着阿ノむ以おと後
と防ノんを先國々ノ大乃と止先ノる後中ハ
七川三郎四郎兄弟才鞠尾道ノ陣とと云云か
くの如く定置此て後後の鞠ノ法着を而も三
實院僧正賢俊勅使としく持以院より院宣と
下ル後卷ノ依て人ノいととあ一正トを敵
の義を全クすにと錦乃法旗と上へきよ一玉

々の味あり作をされルることめてを采此と

云將軍ハ足
利殿也

今按ニ陰徳ニ據ルニコ、ニ逗留アリシハ
此時也讀史餘論ニ北朝ヲハ偽朝トイヒ足
利ヲハ賊ト叛人ト言シナトニエタレハニ
コト將軍ニ志アル輩ニ悪名ヲ避テ觀望セ
シ人多カルヘシ將軍モタヒタヒハ敗軍ニ
懲テ院宣ヲ乞玉ヒシハサアランノヲ心ツ
カレシナリ本心君ヲ君トスル意ニハ非ス
諸國ノ味方ニ御旗ヲ揚サセ人々勇ニアヘ

リトニエルハ真ニ中流之瓠ニテ室町ノ基
ハ此ニ始ル氏云ヘシ又大軍九州ヨリ上リ
玉フ片水陸分道入寇ノ議ハ此鞆ニテ定リ
シヨシ大平記ニモ松梅論ニモ之エメリ仍
テ思フニ義昭將軍毛利ヲ頼ニテ鞆ニ居玉
シ片ハ隣國ノ將士モ渴仰シ其勢威盛ナリ
シニ豊臣公起リ玉ヒシ後ハ死灰再々ヒ燃
出スナリユキテ室町ノ業コ、ニイタリテ
絶ハテタリサレハ足利ノ霸業ソノ基ヲ立
シモユノ鞆ニテソノ消滅セシモニタリ此鞆

津也一奇ト云ヘシ清詩別裁ニ漢朝終始在
三巴ト云句アリ高祖巴蜀ニ起リ後主巴蜀
ニテ降リシヲ云ナリ事似タレハ附記ス

黄蘗山唐僧獨庵詩

戊辰杖予有鎮西之役舟次鞆津浦有小松寺
者蓋平公小松殿開基兼手植松一株至今無
恙矣後人愛其人及松猶耳棠三章予未遑遊
之而舟祭俄遺一絕舒懷云雨
易消人壽等朝霜令德獨兼天地長手子手栽松
尚在至今勿伐比耳棠

右戊辰杖獨庵叟書於舟中

與世山向道亨碣

道亨小琉球貢使王子某及從者一也舟中

二病死七之ヲ小松寺ニ葬ル之ヲ石ニ

トカシシ之ヲ以テ其墓ヲ示スルニ

藩先公了ハ其之ヲ石ヲ刻シ儒臣山室如齋

黃三命ヲ以テ由テ書セシム其時同行ノ人ノ

ソクレル吊詩今夕故國ノ祖父カ奈リシ文

下リ左ニ載スヤ高懸ニ置テ其墓ヲ示ス

恭輓一向道亨與世山學長兄一氣願

並舫同趨萬里邊誰知一旦逝黃泉幽明自是長

相訣胸次凄々淚滴然

恭輓一向道亨與世山先生

中山鄭永泰拜具

芳蘭寂寞萎泉境玉樹光輝碎鬼閨拂淚依之回

首眺無聲匿跡小松山

與世山歸時到與世山墓前燒香叨接

釋仙山

相老僧輓詩四首賦之以謝

髮笄中山向克相

相滯幽明已兩年流淚若^本意想生前今朝辱接僧
師句應識瑤章照九泉

維

寬政八歲夕次丙辰夏五月十九日甲子、老祖父
譜久山親方朝紀、遠具奠儀、寄祭、聞、
亡孫幽岸曹源居士之靈、嗚呼哀哉、汝是弱冠、身
有行役、年方富、不憚難、當其綉衣、分袂、漫漫、恐擬
錦衣榮旋、孰意一別之後、遂成永訣、哉、瘡癘起為
汝患、竟汝捐館他鄉、永滯幽明、哉、而今容貌顏色、
如見其在身傍、中心痛悼、不能忘情、嗚呼天者誠

難測、而壽者不可知也、寬政庚戌之冬、汝殞其生、
葬于鞆澆小松寺、茲當七年之祀期、因有國使赴
江戶之便、遐寄一芹、納諸靈前、併寄立扁額一
面、嗚呼哀哉、尚

維

寬政八年歲次丙辰秋八月十有五日戊子、愚父
與世山親方朝郁、遠具奠儀、寄祭于
亡兒幽岸曹源居士之靈、嗚呼痛哉、吾兒曹源、自
古皆有死、人孰無死、而汝獨未可以死、未可死、而

奈何竟以死聞也、其夢耶、其果真耶、嗚呼痛哉、年
方弱冠、冀其成立、曾允觀光上國、詎想須臾他鄉、
嗚呼汝病、吾不見何如其醫治、汝歿、吾不能撫汝
以盡哀、斂不憑其棺、窆不臨其穴、筑々滯魄、曷依
曷恃、渺々遊魂、誰主誰祀、骨肉覆于土、命也、然情
之所鍾、五內如割、彼蒼者天、曷其有極、汝之歿也、
寛政庚戌之冬、茲當七年之祀期、吾奉王命、未官
薩州、不能親到厥地、因有國使赴
江都之便、遐修薄薦、用伸痛悼、汝其知耶、其不知
耶、嗚呼痛哉、尚

饗
右ノ詩文ニ其力録スル所本書ヲ寫セシ十
餘ハ其ノ記スル所ニ於テ

圓福寺

南林山真言宗明王院末寺
わくと川新浦志所ニ云慶長年中之釋迦堂と
て小松寺の末にありしを信快音大下島子
板ノ圓福寺と號す寛永中より此比に護全
寺といふ小寺ありしは傍宿長川に一寺しす
寛文年中信深慶造管之今の伝是也六郡志

云福祿をにつゝとる京地也惠旭比丘一律七
壁五百尋岬危樓勢欲飛山擎螺髻美海疊翠羅
奇嶽光明神島嶺隣天女崎漁舟五字本マ、歌紀之始
知非南惠旭八京五智山僧之ハウク明王院ニ住ス
南惠旭八京五智山僧之ハウク明王院ニ住ス
圓壽百年前一人也
丙午初秋過圓福寺之作使廣壽栢岩印文性
八面蒼波別有天幻成精舍好安禪白雲借宿為

何事玉笛橫吹送客船
地藏院
鶴林山同宗同末
勸浦志云應永年中僧宿真中興才六郡志云寬

南文のいとわんてしと深宣法下再真才書本
の大般若一部天正十八年竹田兵部寄進才古
蹟志ニ竹田法印者ト同人十人入レト云
寺内ニ鐵蕉ノ大ナルリ住持壽恒客僧日謙
道光ト共ニ詩ヲ吟シ鐵蕉ニ佳對了ルヘシト
撫鬚シテ晚ニ至ルニ知得心ヲ不能夕ニ夕ニ

一人來リ詩ヲ呈ス遙瞻銀杏樹尋入鐵蕉陰卜
云起了火二僧手ヲ拍テ賞歎シ眼前ノ一終日
求テ尸父ハス君不用意ニ以得タリト云シ由
銀杏ノ大樹寺後ニ了リ客ハルカニ黄葉ヲ望
テ尋來シ也ト云ニ五十八年四月廿四日
南禪房山南村海流山浄土真宗光照寺末寺天正年中村上左
衛門助康建立山南村尊榮開基
延享五年戊辰韓使入朝四月十四日學士書記
此寺ニ館シ藩文學伊藤大佐接會又唱和ノ詩

若干首コト各一首ヲノス
奉呈製述官朴公玉梧下伊藤輝祖字必大
洋海三十里星槎修舊盟錦帆侵浪駛旄節截風
明山有竭來氣人楸專對名百聞隣好在青翰照
心情奉次霞臺惠韻朴敬行
壯遊符昔夢異域得新盟積水紅旄迴新暗粉屋
明清詞山海氣小刺斗牛名聊以永今夕彤毫照
兩情奉呈三書記案下輝祖

奉使河源遠漢家重博望風增旄色壯星擁劍光
裝與海恩波濶鞞城別意長翩翩諸記室詞賦各
登場
奉和霞臺贈韻
李鳳煥煥
何曾魂夢到山海只相望花迥仙源水雲隨漢使
裝萍蓬團會穩金薤炳靈長家學箕裘立奚徒壇
藝場
奉和霞臺瓊韻
柳迥
豈無聲氣似萬里祗相望萍水東遊日瓊瑤北去
裝能成山館會不信海天長喜遇仁齋後難忘語

田一場

疊和

李命啓

乾坤有南北別後遙相望落日明金障高雲濕海
裝風蘭心口炯折柳夢應長文軌攸同俗依之翰
墨場
阿彌陀寺
心光山淨土宗知恩院末寺
韋浦志云永祿中天暮爰井和高閣基七七古珠
の下に在る長中山に引六郡志云心光山三
字朝鮮人乃書戊辰孟秋下澣書于蜀浦舟中朝

永野記延室中
道越町堀屋下
云市人ノ建ル處
鐘樓公在藤町茶
長屋上云云ノ建云

專修庵

六郡志云元禄の頃河内陀寺本誓願基として
曉入僧建之二十三体觀音と安置し西國三十
三番の金牌とつけし云々

淨泉寺

海寶山淨土宗當地河彌陀寺末寺

六郡志云慶存僧開基元和の頃建閑町の海岸

寶曆十三年癸未朝鮮人入朝學士書記等

明寺二館不工真宗末本願寺末古入文二羊宗末

先公京御諸司代々此寺より中川修理侯

浦饗接人役ヲ兼リ家老以下儒者醫師等ヲ來

リソノ一二ヲ録ス

賓之館於此寡君奉國命令寡大夫已下共役

左右不佞兼之備負今賓儼然臨焉曷堪欣願

敢裁俚詞昌瀆電覽倘勿鄙棄無任榮感

柴山寬猛字李和

仙帆忽送彩雲飛宮闕蓬萊添曙暉雪滿邊城催
去鷁花晴前殿引春衣來儀文翻披霄過奉使丹

心捧日歸回棹更期滄水曲浮觴重此惜芳菲

席上奉酬柴記室瓊章

秋月

南玉字時韞
号秋月制述

官

溟渚眠鷗靜不飛觀音山下已沉暉澄湖日出留

征帆古寺燈懸解客衣崦釋乞種移權去島人收

細帶潮歸豐州一路蒼茫遠喜襲汀洲蕙杜菲

席上次柴豫章見贈韻

玄川

元仲琴字子
才号玄川

臨湖高閣壓雲飛點々午燈漾落暉寒榻人來挑

顏燭本小庭梅發映華衣天開積水山多出春度重

關雁未歸新藻一篇看逸氣今宵飲得接芳菲

席上支和柴豫章

龍洲

成大中字士
執号龍洲

東風彩鷁不停飛錦浪湖中漾月暉客館清冷依

橘渚佛燈寥寂明荷衣天涯漫迹新年接海外交

情古道歸獨樹寒英隣木榻楚南春色襲菲々

本願寺

本願寺
與樂山相州藤澤末寺開山一遍上人

其河
上人

六郡志よとと要害山の下にありて澳馬坐し

いふ妻戸の時字として厄さりしと也草創の

年代歷世寛永以前ハ云れと内ニ慈光祠あり

り文治年中西町大佛屋といふもの、先祖靈

夢より依て建後祿醫王二寺より七日く建立せ
 といふ勅浦志より一遍上人の伊豫河空七郎道
 廣二男より始天台宗也建治年中徳元靈夢と
 蒙て法園在りありしと云り
此寺ノ旧地ヲモ
今尚沖御堂ト云
 永海寺
本雲波羅山當地本願寺末寺
 六郡志云鍛冶ありと云し以てこの所より
 西より有天和の比遊り上人永海寺といふ筆と
 深しれしより寺といふは本末同一く時字也
此寺勅浦志六郡志ニ工テ明細書ニ工ス
非常ノ小寺ナリウハ寛曆中ニ堂宇ハ居火災

此寺勅浦志六郡志ニ工テ明細書ニ工ス
非常ノ小寺ナリウハ寛曆中ニ堂宇ハ居火災
 醫王寺
 桃林山真言宗明王院末寺中興ハ真永上人享
 祿中再造也モト空海州創ト云

六郡志云じり能登坂の下に慈眼寺といふ
 一利ありて廢してけ寺に傳す基頼の墓ハ彼
 慈眼寺にありしと云り
 今按三勅ノ地中高ク東ヨリ西ハ工ス西
 意ヨリ東ハ遮心物多シ此寺西ノ山麓ニ了
 實東西ヲ一目ニ了ス絶景也

寶巖寺

惠日山同宗同末延寶年中永仙僧開基七十長

福寺上云

あくと川よ慶長十年までの位持之化す長

永年中宿明法印住すといふ

常喜院

東央山同宗同末慶長に宿玉之和よ宿長住此

地福院

玉泉寺

摩尼山同宗同末之と千藏坊の東にあり天正

四年宿俊僧中山の下に板石天和元年祇園再
建の原ありこの處に川あり

地福院

瀧本山同宗同末之と泉藏坊といふ

鞠浦志之仁明天皇御時承和十二年東寺檜尾

僧都實惠開基ト云

増福寺

今法山同宗同末

あくと川よ永禄中住持僧忍雅再修至安中住持

廣泉この處よ板石とと渡社よ近し

顯政寺

壽福山法華宗常國寺末寺慶長中建

妙蓮寺

法昌山同宗京妙顯寺末寺

鞠浦志よ慶長十三年草創しし法宣寺の東よ

在淨圓坊しし寛永中々の處よ水邊記

法宣寺

大覺山同宗同末

わくし川よ後光嚴院の貞治年中大覺僧

正開基ありしと云鞠浦志よハ延文三年戊戌建

善行寺

立大覺ハ近衛攝政經忠公の子たりしと云

護法山浄土真宗光照寺末寺

慶長丙申建ツモト山田村ニ在天文中鞠ニ移

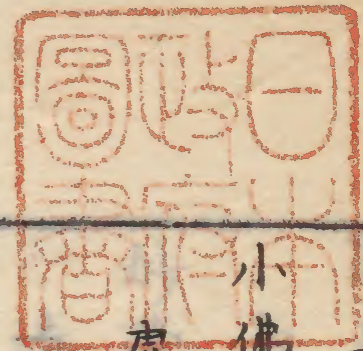
六地藏

六郡志云しし江の浦北南乾のうしに在し

寛文中原村の三昧系へ火をとりしとい

系所津端をといしもの、せし也

庵二



平村ニ在

小佛屋ニ在

虚空藏堂

仙醉ニ在

六福壽堂

百貫島ニ在



延代...



